

会議の名称	第1回 加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
開催日時	平成28年11月1日（火） 午後1時30分から2時55分まで
開催場所	加東市役所 3階 302号室
委員長の氏名	（藤原国弘）
出席委員の氏名	森下智行 藤原国弘 武田卓也 野瀬 光 山口雅隆 大久保育紀 竹内貞美 山本 弘 神戸三男 藤本 覚 長田瑞穂
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	市長安田正義 福祉部長丸山芳泰 高齢介護課 課長藤井康平 看護課長熊谷麗子 主幹降松泉恵 主幹井澤彰子 主幹高浜さおり
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	<p>開 会</p> <p>1. 市長あいさつ</p> <p>2 委員の紹介</p> <p>3 委員長・副委員長の選出</p> <p>委員発議に対し全員承認により、委員長は、藤原国弘委員、副委員長は、山本弘委員に決定する。</p> <p>4 諮 問</p> <p>市長から委員長へ加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について諮問</p> <p>5 議 事</p> <p>議事録署名人に、神戸三男委員及び長田瑞穂委員を選任</p> <p>(1) 加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の概要と今後のスケジュールについて【説明資料1】</p> <p>事務局から説明資料1に基づき説明</p> <p>委員長：ありがとうございました。ご質問等ございませんか。 特にならなければ、次へ進みます。</p> <p>(2) 加東市の現状と課題【説明資料1】 【説明資料2】</p>

事務局から説明資料1、説明資料2に基づき説明

委員長：ありがとうございました。ご質問等ございませんか。

【質疑】

委員：説明資料1の加東市高齢者世帯推移のグラフが載っています。これは5年おきのデータですが、平成27年度のデータはありませんか。

事務局：確認させていただきましたが、平成27年度のデータについては、まだ公開されていませんので、平成22年度までのデータを載せています。

委員：4ページの加東市の状況についてです。被保険者数が載っていますが、収納率は何のくらいですか。

事務局：正確な数字ではありませんが、現年度で特別徴収は100%です。普通徴収は88%で、全体で98%程度かと記憶しています。

委員：6ページに加東市の介護認定者の推移があります。要支援の方の人数が下がっていますが、その要因は何かわかりますか。まちかど体操等の実施が影響しているのでしょうか。

事務局：はっきりとした要因までは検証しきれていません。まちかど体操教室は平成25年度から始まりました。それまでは、高齢の方から「サービスを受けに行くところがどこもない」という相談を受ければ、認定を受けていただき、デイサービスを紹介していましたが、最近は歩いて行ける地区の公民館である体操教室に参加される方が増え、認定を受けずに過ごしておられるということはあると思います。

委員：そのようなことを進めていければよいと思います。

委員長：他にご質問等はございませんか。

委員：確認です。説明資料2の5ページの介護保険の介護予防・日常生活支援総合事業はAとBがありますが、市内の日常生活援助事業というものはAになりますか。

事務局：はい、Aの分野にしています。

委員：赤いところがAですか。次は委託なのでBですか。

事務局：5ページの色分けは、訪問と通所で示しています。「日常生活援助事業」はAで、その下の「かとう介護ファミリーサポート」はBということで、訪問型のサービスになっています。

さらにその下の青い部分は、通所系のサービスで、「元気応援通所事業」と「ミニデイサービス」がA、「まちかど体操教室」と「物忘れ予防カフェ」がBです。「元気になろうデイ」がCとなります。

委員：順次移行されていると思いますが、その際の課題などあれば教えてください。

事務局：昨年度、訪問型を移行しました。これについては、明確にわけることができます。軽微な生活援助が必要な方については、ファミリーサポートセンターで対

応可能だという状況です。どうしても専門的な支援が必要な方については、従来のヘルパーの訪問サポートで日常生活援助事業を利用するというように、スムーズに移行できたと考えています。

今年度は通所型を移行していますが、利用者にとっては従来からのデイサービスというコミュニティが固まっている状態ですので、「デイサービスから地域に」という移行の仕方がそぐわないような状況です。仕方なくサービスAに移行するケースが多くなっています。それについては、その方の居心地よい居場所として、デイサービスがそのまま利用できる方が適切だと考えました。ほとんどの方が元気応援通所事業に移行されているのが現状です。8月末のグラフが挙がっていますが、そのような状況を表しています。

通して、大まかに思うことは、要介護になられる方が多いので、もう少しお元気になって卒業されるイメージに向けての取り組みが必要だということです。要介護になることを防ぐような仕掛けが必要だと思います。

委員長：他に何かご質問等ございませんか。ないようですので、次へ進みます。

(3) 加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のアンケート調査について【説明資料3】【説明資料4】【説明資料5】

事務局から説明資料3、説明資料4、説明資料5に基づき説明

委員長：ありがとうございました。ご質問等ございませんか。

【質疑】

委員：本人の名前を明記してありますので、アンケートというより個別調査かと思えます。

委員：そうですね。一般の方は、アンケートは無記名でお答えいただくイメージがあると思います。表現のしかたについて、一般の方と行政側で、もつイメージが違うのだと思います。

事務局：前回の第6期の計画でも、「見直しのためのアンケート調査」という表現で、同じく記名式で行いましたので、その流れを継承しています。それによって回収率が減ったということもなく、回収率も高くなっています。どこの地域の方がどのようなことで生活にお困りかという、地域ごとの詳細な統計もとれますので、記名式にしています。

委員：わかりました。

委員：個人情報について問題になりやすい時代ですので、万が一のことがあれば困ります。アンケートであるなら、記名するかしないかは自由にして、書きたくない人は書かなくてもよいという方式をとった方がよいかもしれません。

高齢者が、これだけ大量のアンケート項目に正しく答えられるのか、非常に疑問を感じます。私が見ても、サービス名による違い等、よくわからないところが多くあります。高齢者を対象にするのであれば、もう少し簡単で、非常にわかりやすくすることが必要です。本当に知りたいことについては、個別調査をされればよいかと思います。これから計画をするのであればご検討ください。

事務局：国で決められた調査項目を踏襲しなければいけないということが、基本にあります。それに加東市独自のサービス、例えば利用意向だとか認知度などを調査した上で、計画を立てていきます。

委員：国で決められた調査項目があるのですか。

事務局：はい。国で決められた調査項目に市独自の項目も入れるので、どうしても量が多くなります。今回の質問数は前回と同様ぐらいか、若干減らしていると思います。

委員：私は前回のことを存じませんが、前回の回答率はいかがでしたか。

事務局：70%ほどの回収率でした。

委員：みなさん、正確に回答されていますか。

委員：加東市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画の冊子の8ページに、前回平成25年11月のアンケート結果の回答率が載っています。

事務局：そこに有効回収率が、一般高齢者で78%、認定を受けておられる方で67%とあります。

委員：国からも記名で調査するように、という方針ですか。

事務局：前回の調査の際に「できるだけ記名式で実施するように」ということでした。なぜ記名式にするのかということですが、6期でも回収率自体が上がりました。記名式にすることで個別調査のようになってしまうのですが、その内容は地域ごとの分析も役立てることが出来ます。できれば全体をみて分析する中で、個別にフィードバックすることも行っていきたいということで、前回と同じ形をとっています。

委員：前回、個別にお困りだという回答があった方に、直接働きかけるということはされましたか。例えば、お困りの方に訪問するという使い方はされませんでしたか。

事務局：前は国から生活支援ソフトが配布され、個々にアンケート内容をもとに個別分析したデータを配布させていただきました。例えば、まちかど体操教室の通いが必要な方がいれば、そこでご案内するというのをさせていただきました。前回では一般アンケートに答えていただいた方にも、かなり好評だったというご意見をいただいています。

委員長：ありがとうございました。

他にご質問等はございますか。では、アンケートについてはこの方向で進めさせていただきます。

全体についてのご質問等はございませんか。

では、本日の議事はこれで終了いたします。ありがとうございました。
進行を事務局にお返しします。

閉 会

平成28年 12月 9日

委員長 藤原 国弘



署名人 長田 瑞穂



署名人 神戸 三男

